

2020

JULY 7 vol.48

# 東京成徳広報



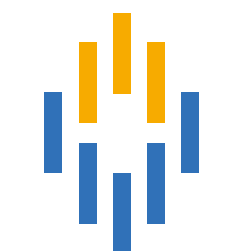
東京成徳大学深谷中学・高等学校のグラウンドを人工芝にリニューアル



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	<b>巻頭言「コロナ対応と今後を考える」</b> 東京成徳学園 理事長 木内 秀樹
P 4	<b>特集「新型コロナウイルス感染症への各校対応」</b> 世界の動きと各校の対応を時系列で振り返る 各校の対応（大学 短期大学 中学・高等学校 深谷中学・高等学校 幼稚園）
P 12	<b>Topics 幼稚園 園舎建て替え工事の進捗</b>
P 13	<b>進路「大学・短期大学の就職・進路」</b>
P 14	<b>進路「高等学校の進学」</b>
P 15	<b>学園の動き「第2期中期事業計画」</b> 東京成徳ビジョン100の重点目標・戦略と第2期中期事業計画の概要
P 17	<b>学園の動き「令和元年度事業の概要」</b>
P 18	<b>学園の動き「令和2年度事業計画（抜粋）」</b>
P 19	<b>学園の動き「学園人事」</b> 役員の変更 役員の叙勲 採用・退職・異動
P 20	<b>WEB オープンキャンパス／入試情報・お問い合わせ先</b>



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク  
イエローは「活力」と「勇気」を表し、  
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、  
同窓生を象徴しています。  
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五  
本の柱は五つの教育目標を象徴していま  
す。  
そして、八本の柱が一体となり、東京成  
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ  
ニティを作り上げる姿を表現しています。

**表紙 東京成徳大学深谷中学・高等学校のグラウンドを人工芝にリニューアル**

東京成徳大学深谷中学・高等学校グラウンドのリニューアル工事が完成しました。工事内容は、人工芝敷設工事、陸上用走路整備、照明のLED化、ネットフェンスのかさ上げなどです。人工芝は、ロングパイル人工芝を使用しており、水はけの改善に加え、膝や腰への負担を軽減することができます。このグラウンドを、授業だけでなく、部活動にも大いに活用し、レベルアップにつながることを期待されます。

とりわけ男子サッカー部は、「施設が整備され、質の高い練習ができるので、全国大会出場を目標に頑張りたい（為谷洋介監督）」と、士気が上がっています。



## 「コロナ対応と今後を考える」

東京成徳学園 理事長 木内 秀樹

### 一、日本の動き

今年1月に中国で新型コロナウイルスが検出され、23日には武漢市が都市封鎖された。その頃はまだ他人事であった。それが2月に入ってクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が横浜に入港、その中に感染者が多数出たことから、日本でも大騒ぎになっていった。欧米のマスコミからは、クルーズ船の防疫について日本の対応は最悪だと非難する論調が強かったが、クルーズ船の所有会社や船長も姿を現さず、日本にだけ対応を押し付けられているようで何か釈然としない気持ちだった。しかし、この出来事は日本人のコロナウイルスに対する危機意識を高めるのには十分な効果があった。

そして、2月27日には国から小中高の一斉休校が要請され、これに大学なども追従した。この要請に対しては、唐突だとか学習の遅れを招くなどの意見もあったが、この判断は正しかったと考えている。なぜなら、学生、生徒の移動がなくなったことにより輸送機関の密の状態が少し緩和さ

れたからである。そして学校が休みになったことで大きなイベントなどが一気に自粛の方向に傾いていった。

次に4月7日政府は緊急事態宣言を7都府県に発令、4月16日には対象地域を全国に広げ、東京都などの自治体が宣言に基づく休業要請を出したことは皆さんもご承知の通りである。

### 二、本学園の動き

本学園では、大学・短大の卒業式が中止となり、中高では卒業生と教職員のみで卒業式となった。幼稚園については、卒園式と入園式を保護者出席のもと感染防止に配慮の上、実施。大学・短大では、前期授業がオンラインでの実施となり、中高でも休校中はオンライン授業となったが、幼稚園・中高とも6月から学校を再開した。

国内だけでなく世界中に感染が拡大した影響から、大学の国際学部では、留学（米国・韓国）している学生を途中で帰国させざるを得なくなった。また中学3年生はNZに1月中旬から留学中であったが、現地

の封鎖宣言を受け4月上旬の帰国予定を約2週間早めざるを得なくなつた。帰国便の確保は大変であったが、近畿日本ツーリストのご尽力により全員無事帰国できたことを感謝しお礼を申し上げたい。

活動を再開したところは毎日の健康チェック表（体温・身体の具合）の提出を義務付け、入館時のアルコール消毒、換気、食事前の手洗い、マスク着用の励行を指導している。

### 三、今後について

今回の経験は、私達にいろいろなことを教えてくれた。混乱した不確実な世の中だと言われるが、将来の社会の姿がおぼろげながら見えて来たような気がする。

まずは社会的に見ると生活スタイルの変化が加速し、仕事のやり方が多様化するに違いない。

新しい社会システムへの対応として、新型コロナウイルス禍が始まる前から、テレワーク・オンライン診療・遠隔授業など試行されていたが、まだ本格的なものではなかった。これからは国が進めている Society 5.0の実現を目指して新しいICTインフラ整備を急ぐ必要があるだろう。

学校教育のあり方についても、従来の方法で良いのかが問われている。基礎的な教育（知識の習得など）

をある程度オンライン教育に移行することにより、習熟度別授業などもより個々への対応が可能になり効果が期待できそうである。更にAIを活用すれば、どこが理解できなくてどこからやり直したらよいかにより明確になるだろう。しかし、意欲（向上心）があるか否かによって効果も大きく変わると思われるので、それに取り組ませる励ましとモチベーションの形成をどうするかは課題となろう。夏期講習などの特別授業もオンラインのオンデマンド方式にすれば、自分にあつた講座を都合の良い時間に受けることができるはずである。

そうなると学校では対面で議論する探究学習やアクティブラーニングが教育の重要な役割を持つようになるだろう。

一方で、青少年期は、仲間と共に時間を共有し同じ体験の中で悩んだり喜びを感じる事が大切だ。ネットだけのつながりですこやかな人間の成長を得られるとは思わない。特に中等教育までは、従来の教育とオンライン学習とのバランスをとることが求められる。そういう視点から学校における行事や課外活動（部活動）の意義を改めて考えてみたい。また「留学」も世界を舞台にしたリアルな体験として、より貴重なものとなるだろう。

新型コロナウイルス感染症への各校対応

世界の動き

大学・短期大学の対応

中学・高等学校の対応

深谷中学・高等学校の対応

幼稚園の対応

3月					2月					1月												
29	28	27	25	24	19	17	16	13	12	11	9	8	4	2	28	27	25	5	2	30	27	23
<p>【日】東京オリンピック・パラリンピックの延期決定 【日】東京都知事が夜間や週末の不要不急の外出自粛を要請 【英】チャールズ皇太子の感染を発表 【英】ジョンソン首相の感染を発表 【中】外国人の入国を事実上禁止 【日】タレントの志村けんさんが肺炎で死去</p>					<p>【WHO】「パンデミック」と認定<sup>*1</sup> 【日】生活必需品を除く商店や飲食店を営業禁止 【米】国家非常事態を宣言 【独】入国制限 【EU】30日間の入域制限<sup>*2</sup> 【米】国民に国外渡航の中止を勧告</p>					<p>【日】全国の大半の学校が休校へ 【日】全国の学校閉鎖を決定 【伊】イタリア北部を封鎖 【日】中国・韓国からの大幅な入国制限</p>					<p>【日】専門家会議が「これから1〜2週間が感染拡大が収束かの瀬戸際」と見解公表 【日】安倍首相が全国小中高に春休みまでの休校を要請 【日】文科科学省が全国の教育委員会に「小中学校の臨時休校を通知 北海道知事が独自に「緊急事態宣言」」</p>					<p>【中】武漢を「封鎖」 【中】団体旅行を禁止 【日】中国・武漢から民間チャーター機の第1便が帰国 【米】中国全土への渡航禁止を勧告 【伊】中国人旅行者の感染確認</p>		
<p><sup>*1</sup> WHO：世界保健機関 <sup>*2</sup> EU：欧州連合</p>					<p>HPに発表された、卒業証書・学位記授与式中止の案内。</p>					<p>指定感染症の指定を受け、学生に感染予防を周知</p>					<p>一般入試等が必要に応じて 振替受験等の対応を発表 3月のオープンキャンパス中止を発表 入学式（4月3日）を案内通り実施予定と発表 卒業証書・学位記授与式（短大3月12日、大学3月18日）の中止を発表</p>							
<p>入学式中止を発表 日本国内の感染拡大に伴い、学生に更なる感染予防の注意喚起（当分の課外活動の中止・延期／国内外の旅行、渡航等の中止・延期等） 国際学部 米国留学中の学生帰国を決定 国際学部 新入生留学説明会（4月3日）を4月25日に延期を発表 学生に通学時の感染予防の注意喚起（日中の体調管理（体温測定等）／マスク着用の徹底等） 授業開始を4月7日から 4月20日に延期を発表 新入生オリエンテーション（4月1〜2日）の延期（国際学部除く）を発表 国際学部・人文学部 韓国留学中の学生帰国を決定</p>					<p>卒業証書・学位記を郵送による送付すると発表</p>					<p>卒業証書授与式を再開 入学準備説明会（3月2日）を3月29日に延期を発表（含高等部） 実施を発表</p>					<p>卒業証書授与式を再開 入学準備説明会（3月2日）を3月29日に延期を発表（含高等部） 実施を発表</p>							
<p>入学式（4月5日）を規模縮小による開催を発表 入学式を4月13日に延期を発表</p>					<p>NZ学期留学帰国日程変更を発表（中高一貫部） 通知表・教科書配布（3月25日）を時差登校による実施を発表</p>					<p>臨時休業に伴う行事予定等の変更について生徒・保護者に案内（中高一貫部） 3月の臨時休校を発表（学年末考査の中止／部活動の禁止（25日まで）／不要不急の外出自粛等） 卒業証書授与式を再開 入学許可候補者説明会（3月15日）を時間を短縮して実施を発表</p>					<p>コロナウイルス感染症に関する対応について書面版配布 （3月中の行事予定変更のお知らせ） 3月の臨時休校を発表 （学年末考査の中止／部活動の禁止（31日まで）等） 翌29日に卒業証書授与式の実施を発表</p>							
<p>始業式（4月6日）の時差登校による実施を発表 部活動の3月中の自粛を発表 入学式（4月7日）の規模縮小による開催を発表 時差登校、短縮授業の実施を発表 部活動の条件付きの実施を発表</p>					<p>3月の臨時休校を発表 （学年末考査の中止／部活動の禁止（25日まで）／不要不急の外出自粛等） 卒業証書授与式を再開 入学許可候補者説明会（3月15日）を時間を短縮して実施を発表</p>					<p>2月中の時差登校、短縮授業の実施を発表 予餞会（卒業生送別）の中止を発表 創作ダンス発表会（3月2日）の延期を発表 生徒・教職員に感染予防を周知 時差登校、短縮授業の継続を発表 卒業式（3月4日）を規模縮小し、卒業証書授与式の実施を発表</p>					<p>2月中の時差登校、短縮授業の実施を発表 予餞会（卒業生送別）の中止を発表 創作ダンス発表会（3月2日）の延期を発表 生徒・教職員に感染予防を周知 時差登校、短縮授業の継続を発表 卒業式（3月4日）を規模縮小し、卒業証書授与式の実施を発表</p>							
<p>卒園式を開催</p>					<p>卒業式を園庭で実施</p>					<p>卒園式では、卒園児とその保護者、園長及び教員まで、マスク着用で開催しました。</p>					<p>密閉された空間を避けるため、卒業式を園庭で行いました。</p>							

6月					5月					4月																																																																																									
29	19	17	12	11	2	1	30	28	25	21	20	14	12	11	10	8	5	4	1	26	25	22	20	16	14	11	10	8	7	6	3																																																																				
<p>【中】79名の感染者を確認、第2波を警戒</p> <p>【都】都道府県をまたぐ移動自粛が全面解除</p> <p>【野】プロ野球が延期を経て開幕、史上初の無観客試合</p> <p>【感】感染による世界の累計死者数が50万人を越す</p>					<p>【米】26県で休業要請を緩和、このうち5県は全面的解除</p> <p>【世】世界全体の感染者数が累計で400万人を越す</p> <p>【外】外出制限を緩和</p> <p>【全】全国総合文化祭の通常開催を断念し、WEB開催に</p> <p>【緊】緊急事態宣言を39県で解除</p> <p>【関】関西圏3府県(大阪・京都・兵庫)で緊急事態宣言解除</p> <p>【都】都道府県(北海道・埼玉・千葉・東京・神奈川)の緊急事態宣言解除により全域解除</p> <p>【新】新型コロナウイルスによる死者が10万人を越す</p> <p>【米】ソウル郊外で集団感染が発生、第2波を警戒</p> <p>【米】米W.H.Oの脱退を表明</p> <p>【休】休校が続いた首都圏などの多くの学校が授業を再開</p> <p>【京】東京都が感染拡大の兆しがあると「東京アラート」発令</p> <p>【東】東京都が「東京アラート」を解除</p> <p>【新】新型コロナウイルスの追加対策を盛り込んだ総額31.9兆円の第2次補正予算が成立</p>					<p>【米】死亡者数が世界最多(1万8,860人)に</p> <p>【W.H.O】への資金拠出停止</p> <p>【MF】世界経済の現状を「グレート・ロック・ダウン(大封鎖)」と表現</p> <p>【緊】緊急事態宣言を全国に拡大</p> <p>【安】安倍首相が全国民に一律10万円の給付を表明</p> <p>【原】原油先物価格が初のマイナス</p> <p>【專】専門家会議が、人と人との8割減に向けた「10のポイント」を公表</p> <p>【東】東京都が呼びかけた「Stay Home 週間」が始まる</p> <p>【全】全国高校総合体育大会(夏季大会)の中止が決定</p>					<p>【伊】入域制限を延長</p> <p>【商】商店閉鎖を一部緩和へ</p> <p>【武】武漢の「封鎖」を解除</p> <p>【7】7都府県対象に緊急事態宣言</p> <p>【49】49国・地域からの入国拒否</p> <p>【安】安倍首相が緊急事態宣言を出す意向を表明</p>					<p>【授】授業開始を4月20日から</p> <p>【新】新入生オリエンテーションを</p> <p>【国】国際学部を除き5月7~9日に延期、国際学部(4月17日)は中止を発表</p> <p>【新】国際学部 新入生留学説明会を</p> <p>【学】4月25日から5月25日に再延期を発表</p> <p>【学】図書館5月6日まで臨時休館を発表</p> <p>【学】学生に緊急事態宣言期間の注意喚起(学内への入構禁止・課外活動の中止継続等)を実施準備を進めていることを発表</p> <p>【学】5月11日からの授業は遠隔授業で実施することを発表</p> <p>【オ】オンライン型</p> <p>【双】②リアルタイム・双方向型を想定</p> <p>【リ】③リアルタイム・双方向型を想定</p> <p>【新】新入生オリエンテーション(5月7~9日)をオンライン等の実施に変更</p> <p>【支】就職支援のWEBによる面談対応を発表</p> <p>【図】図書館5月30日までの臨時休館延長を発表</p> <p>【図】図書館 郵送による図書貸出開始を発表</p> <p>【全】全学生対象の緊急修学支援策を発表</p> <p>【全】①全員に一律10万円の給付</p> <p>【学】②学費納付困難者に対し、分納・延納期限の最長1年間延長</p> <p>【本】③本学独自の学費減免制度の拡大</p> <p>【大】④大学所有デバイスの無償貸与ほか</p> <p>【オ】6月のオープンキャンパス中止を発表</p> <p>【隔】遠隔授業を開始</p> <p>【前】前期の授業を原則、遠隔授業とすること</p> <p>【定】定期試験は実施せず、その他の方法で評価することを発表</p>					<p>【WEB】WEBオープンキャンパスをスタート</p> <p>【合】総合型選抜の入試日程後倒しを発表</p> <p>【応】応用心理学部臨床心理学科では、オンライン講義に備え、学生宛に事前に講義資料を送付</p>					<p>【生】生徒に4月12日までの自宅待機を要請(中高一貫部)</p> <p>【NZ】NZ留学からの帰国生徒に2週間の自宅待機を要請(中高一貫部)</p> <p>【授】授業開始に向けてオンラインによる授業の実施準備を進めていることを発表(高等部)</p> <p>【入】入学式の延期を発表(5月6日まで)</p> <p>【臨】臨時休校の延長を発表</p> <p>【始】始業日を高等部4月6日・中高一貫部4月13日から</p> <p>【5】5月7日に延期を発表</p> <p>【遠】遠隔授業を開始(中高一貫部)</p> <p>【5】5月当初の予定を</p> <p>【生・保】生徒・保護者に案内</p> <p>【5】5月当初の予定の延期を</p> <p>【生・保】生徒・保護者に案内</p> <p>【5】5月31日まで</p> <p>【臨】臨時休校の再延長を発表</p> <p>【入】入学式・始業式の</p> <p>【6】6月1日開催を発表</p> <p>【遠】遠隔授業の環境テストを実施(高等部)</p> <p>【6】6月当初の分散登校について生徒・保護者に案内</p> <p>【学】学校再開に向けていて生徒・保護者に案内</p> <p>【入】入学式・始業式を開催</p>					<p>【新】新型コロナウイルスの影響で延期となっていた入学式を6月1日に挙行了</p> <p>【上】上段：高等部</p> <p>【下】下段：中高一貫部</p>					<p>【入】入学式(4月7日)を</p> <p>【従】従前の案内通り実施と発表</p> <p>【4】4月11日まで臨時休校を発表</p> <p>【始】始業日を4月13・14日(学年別)に</p> <p>【延】延期を発表(深谷高校)</p> <p>【始】始業日を4月15日に</p> <p>【延】延期を発表(深谷中学)</p> <p>【臨】臨時休校中の部活動禁止を発表</p> <p>【入】入学式の延期を発表</p> <p>【5】5月10日まで</p> <p>【臨】臨時休校の延長を発表</p> <p>【臨】臨時休校中の部活動禁止を発表</p>					<p>【入】入学式(4月12日)から</p> <p>【5】5月2日に延期を発表</p> <p>【4】4月10日まで</p> <p>【臨】臨時休園を発表</p> <p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【4】4月18日まで臨時休園の</p> <p>【延】延長を発表</p> <p>【5】5月7日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>					<p>【入】入園式(5月2日)の</p> <p>【再】再延期を発表</p> <p>【5】5月31日まで臨時休園の</p> <p>【再】再延長を発表</p>				
<p>【深】深谷中学1年生の初登校</p> <p>【深】深谷高校1年生の初登校</p>					<p>【上】上段：教室に入る前に手の消毒</p> <p>【下】下段：久々の登校で再会する生徒の口元にも、コロナ対策でマスクを着用</p>					<p>【上】上段：英語の授業でWEB上で集まる生徒と先生</p> <p>【下】下段：教室から授業を配信する先生の様子</p>					<p>【2】2か月遅れた入園式。マスク着用とソーシャルディスタンスに配慮し、挙行了しました。</p>																																																																																				

新型コロナウイルス感染症への対応  
東京成徳大学

学長 新井 邦二郎

大学の2つのキャンパス及び短期大学が一体となって、このコロナ感染危機に対応するため、大学・短期大学の『危機管理規程』にしたがい、「十条台・八千代キャンパス危機対策本部」を4月1日に立ち上げました。この「本部」の中に、大きな課題ごとに、班またはグループを設置しました。

4月からの授業は、感染拡大防止のため学内での対面授業を断念し遠隔授業に切り替える必要がありました。教員の誰もが経験したことのない遠隔授業のため「授業危機対策班」が、学内の知恵とパワーを集めて遠隔授業を何とか無事に開始させ、また現在まで大きなトラブルもなく進むことができています。授業開始は5月11日となり、例年よりも一か月ほど遅くなりました。

遠隔授業を受けるのに必要な受信機器類を学生が確保しているかどうかを調べ、それが欠けている学生に無料貸出しを行ったのが「学生受講支援班」です。全員の学生が少なくともスマートフォンを使用し

て遠隔授業を受講できる状況を作ることができました。

ほかに「留学・国際交流班」が留学の学生や保護者への連絡を密に取りました。「感染者発生時対策班」は、感染の疑いのある学生が発生した場合の学生への対応のフローチャートを作成しました。「昼食及び感染危機対策班」は感染リスクの最も高い昼食の取り方についての提案を行いました。このように計五班と4グループが活動しました。

緊急事態宣言期間中に休館した図書館は無料の郵送貸出しを始めました。またこの機に「電子図書館」をスタートしました。就職支援センター及び学生相談室は、電話やメールのほかインターネットを使用した遠隔相談を行いました。入試広報センターは、オープンキャンパスに代わるものとして学科紹介動画をアップするとともに、事前予約の「進学相談会」を実施しました。

学生及び保護者の経済力の低下を鑑み、本学独自なものとして全学生に一律10万円を給付しました。また学費納付困難な学生の分納・延納の最長1年間猶予、学園独自の学費の減免対象の拡大を実施し、学業継続のための支援を行っています。

人文学部

人文学部長 青柳 隆志

人文学部では、日本伝統文化学科、国際言語文化学科それぞれに、オンライン授業のサポート組織を編成し、学科内での問題を随時共有しました。実技系科目につき、苦慮した部分もありましたが、事前の模倣授業をはじめ、機器等のトラブルをすぐに解決できるように授業を進めました。日本伝統文化学科では、非常勤講師ともオンラインで会議を行いました。幸い、大きなトラブルもなく、現在順調に推移しております。

今後、教育実習等、対面授業が必要な一部科目について、教室での実施に、三密対策を十分に講じ、後期に想定される対面授業への準備を進めてゆきたいと思っております。

国際学部

国際学部長 芳賀 克彦

国際学部の新型コロナウイルス対策は本年2月中旬から開始しましたが、当時はアメリカ、韓国に学生を派遣中でしたので、最大の課題はこれら2カ国の感染拡大状況を踏まえ、いつまで留学が継続できるか、また、2カ国の状況を総合的に判断し、いつ留学中止を判断するかということでした。その結果アメリカについては3月23日、韓国については3月30日に留学中止を決定しました。現在の最大の懸案は本年4月に入学した1年生の秋の留学です。アメリカ、韓国の状況を踏まえ、いつ留学が再開できるのかについて代替案も含め慎重に検討していきます。



双方向型のオンライン講義の様子。講義を行う教員（写真右下）と受講している学生が画面に映し出されています。



教員による会議もオンラインで実施。緊急の会議も自宅から繋ぐことで、参加することができます。

応用心理学部

応用心理学部長 吉田 富二雄



臨床心理学科による新生に向けた、ビデオメッセージの配信。

臨床心理学科では、4月8日、新生に先生方全員のビデオメッセージを配信。「ご入学おめでとう。皆さんを心から歓迎します。」（スマホだけで受講している学生もいるので）1・2年生には、授業の手触りを感じてもらえるように、講義資料15回分をゆうパックで3回に分けて送りました。福祉心理学科では、研究室や自宅にビデオ撮影ができるスペースを作成。また、健康・スポーツ心理学科では、学生のPC環境の調査と貸出・不具合への対応などを行いました。いずれの学科においても、教員同士の活発な情報交換、そしてオンラインFD（教育研修会）を通して初めての遠隔授業に備えました。

子ども学部

子ども学部長 永井 聖二



大学の講義室で、双方向型のオンライン講義を配信中。これまでなら学生で賑わう教室もガランとしています。

子ども学部の授業も、遠隔授業の形態により開始されました。子ども学部では、音楽や保育実習の授業など遠隔授業での教育効果には限界があるものも多く、その実施には困難もありますが、試行錯誤のなかで徐々に成果が上がっています。7月からは、一部で対面による授業が実施され始めました。また、多くの学生がアルバイトによって就学を維持している現状から、その機会の消失や縮減の影響についても対応を強化したいと考えています。高等教育就学支援の施策や大学からの給付が下支えにはなっていますが、就業機会の減少の学生生活と学修への影響に注意したいと考えています。

経営学部

経営学部長 村山 純



チャット機能を利用して、学生・教員間で、積極的なコミュニケーションがとられています。

経営学部では、今学期、原則としてすべての教科を遠隔授業で実施しています。「インターンシップ」「ファッション販売実践」「スポーツ」など実習系の科目も、講師の先生方のご協力により、遠隔授業で講できました。遠隔授業については、いろいろ懸念点があります。しかし、学生が積極的にチャットを活用して教員とやりとりするなど、対面授業では得られないメリットも確認できました。コロナ問題を契機に、在宅勤務の一般化など、社会のデジタル化が進展しそうです。そこで必要とされるPC運用能力や自己表現力を涵養すべく、教育内容・方法の見直しを行っていく予定です。

大学院心理学研究科

心理学研究科長 石隈 利紀



教員と大学院生が相談員としてご相談に応じる心理・教育センターの受付でも、感染拡大防止に取り組んでいます。

4月には、大学院の新生を迎える準備と在校生への教育の継続に力を尽くしました。新生には課題（文献レポート）を出し、在校生にはMicrosoftのTeamsで論文のゼミ、実習等のスーパージョンを続けました。また心理・教育相談センターも、4月は閉室となり、また外部での実習も「一時中止」となりましたので、模擬事例課題、オンラインでの試行カウンセリングなどで大学院生の訓練を行いました。6月18日から、心理・教育相談センターを再開し、また一部の外部施設での「心理実習Ⅰ」（実習）も始まりました。学生の安全第一のものに、教育の質を維持するようベストを尽くしていきます。

新型コロナウイルス感染症への対応  
東京成徳短期大学

幼児教育科長 安見 克夫  
幼児教育科教授 大澤 洋美

コロナ禍 短期大学のその時

平穏な暮らしの中に突然に、1月23日危機を感じるような感染症の発生の速報が舞い込み動揺が走りました。その後、一か月の間に、対策の準備をする時間もなく、瞬間に感染が広がり、大都市圏は、新型コロナウイルスに汚染され、その後全国に広がりました。

2月27日内閣は、春休みまで全国の小中高等学校に対して休講を要請したことから、大学の対応が急がれました。短期大学は、当初卒業式を、時間短縮、学生のみでの実施する方向で検討されていましたが、大学が、芝公園メルパルクでの会式を中止したことで、短期大学も中止することとなりました。合わせて、卒業を祝う会・謝恩会も、中止となり、令和元年度生には、卒業証書・学位記を木内秀樹学長・科長・教職員からのメッセージを添えて郵送しました。そして、新学期を迎えても、終息の兆しがなく、入学式や授業開始に向けたオリエンテーションなど、新1年生と進級した2年生の対

応が急がれました。

このような状況の中でも、学生の深く豊かな学びや目標に向かう生活が可能となるように、新学期の準備に総力を挙げて取り組みました。

1年生のオリエンテーションでは、学生一人ひとりが不安を感じることがないようにクラスごとのプレオリエンテーションでオンライン対面をしました。その後のオリエンテーションでは、資料の配布とオンデマンド形式で学生生活や履修の仕方を動画や資料を使用して知らせました。また、オリエンテーション後は、担任がフォローアップも行いました。アンケートを活用することで、個々の確認や対応が可能になり、オンラインのよさも感じていきます。事務局の皆様にもたくさんのお力添えをいただき、オリエンテーションを無事に終わることが出来ました。

授業については、各担当からの丁



資料と動画によるオンデマンド型のオリエンテーション

寧な情報提供と各学年の個別対応の結果、スムーズに開始され、授業の充実のための工夫が図られています。

2年生の課題研究では、少人数での話し合いがオンライン会議システムで盛んにされるようになっていきます。また、戸外の調査の結果をオンラインで送りながら、授業に参加する等、オンラインを活用した学生の積極的な姿も見られるようになっていきます。1年生の幼児教育基礎演習の授業では、6月5日に木内学長の講話「建学の精神」を行いました。事前録画にご協力いただき、

オンライン動画から視聴可能にしたことで繰り返し聴いて、成徳の精神をしっかりと学んでいることが確認出来ました。一人ひとりのペースで学びを深めるオンデマンド型授業や様々なオンラインシステムを活用が学びを豊かにしています。



学外での調査の結果をオンライン送信で報告 (課題研究B 公園の遊具調査)

2年生の就職ガイダンスもオンラインで5月14日(就職活動の流れやルールの説明)、5月29日(求人票の見方と履歴書の書き方)、6月20日(先輩保育者からの助言)の3回を実施しました。就職相談にもオンラインで対応しています。求人情報もオンライン化されていますが、保育系の求人は秋に届くため、今は焦らずに力をたくわえる時期だと指導しています。

手探りの状況の中で、始まったオンライン授業ですが、デジタルネイティブ世代の学生たちの順応力には驚くものがあります。一方自ら取り組む力を求められる厳しさが生じることもあります。学生一人ひとりを教員が熱い思いとチームワークでサポートしながら、オンライン授業での充実した学修が可能となるように力を合わせている幼児教育科の日々です。



幼児教育基礎演習での動画による講話の様子



**新型コロナウイルス感染症への対応**  
東京成徳大学中学・高等学校

副校長 野中 修也

文科省より新型コロナウイルス感染症対策としての休業要請を受け、3月2日～6月1日の三か月、臨時休業としました。とても残念で悲しい出来事でした。本稿では、主に休業中の生徒学習への学校対応について、一貫部、高等部のそれぞれの取り組みを紹介いたします。

**中高一貫部の取り組み**

一貫部では「家庭での負担軽減、子供の心のケアを重要視した運用」を最も大切にし、オンライン学習を展開してきました。内容のあるきちんとした学習になっています。

まず、最初の一か月はオンライン学習に慣れることを前提に展開しました。課題の配信は毎朝決まった時間に送り、一日のスケジュールの見通しが立つように指導しました。始まるの時間を固定し、クラスでオンラインホームルームを実施しました。健康チェックや課題の指示などを行う時間を設け、起床時間を決めました。その後、課題を配信し、ある程度生徒が余裕の持てる時間を設定し、一日の終わりに提出を促しま

した。課題提出はiPadを使用し、タイムリーに提出を確認しました。本校が採用しているGoogle Classroomというアプリは生徒の提出物をそのまま確認できます。筆跡や文章量などを見ながら課題の選定を図り、生徒の心理状況を意識していました。中1～高3まで様々ですので、メールや電話対応なども行いました。こうした流れで4月の学習を行い、5月のGWに再度、検討に入りました。6月からの新学期のスタートを意識して一部変更しました。オンライン学習に慣れてきたことを踏まえ、「大幅な変更はしない」ことを念頭に置きまして。通常の6時間授業を行うことはせずに、これまでの課題配信の時間を4コマ(1コマ60分)に編成しなおしました。そこにオンライン授業



オンラインによるホームルームの様子。毎日、生徒と教員が顔を合わせる機会を作りました。

を入れたり、課題配信を継続したり、オンデマンド授業(事前収録型授業)を導入しました。生徒の各家庭ではその前の月以上にご家族のテレワークや兄弟のオンライン学習などを踏まえ、「家庭に無理をさせないながらも、学習を前に進める」という強い信念をもって取り組みました。

生徒の参加率及び課題提出率は90%以上をほぼ毎回確保しました。通常の授業を受けるよりも課題を終わらせるのは負担があります。授業でいえば居眠りをせずに集中していた生徒が90%以上と考えられると思います。

授業は生徒の状況を踏まえて行のが大前提です。新学期高揚感や学校行事の疲労感、前の時間に行った授業内容など様々です。オンライ



本校教室からパソコンにつないだカメラを使用して、ホームルームの時間に配信を行いました。

ンにするとつい見過ごしがちな実質的な学習効果を踏まえ、オンラインのツール確保に急いでしまいがちです。私たちはICTを活用してきた前提を踏まえ、「家庭での負担軽減、子供の心のケアを重要視した運用」を前提に効果的な学習となるような授業運用に努めました。

**高等部の取り組み**

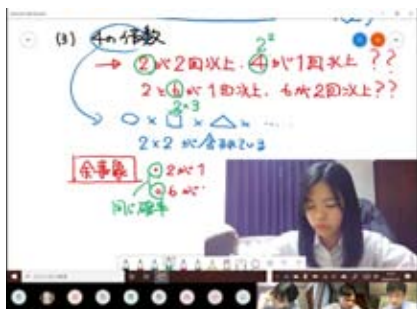
高等部では、臨時休業期間中に生徒が授業を受けることができないことによつて、学習が遅れが生じるのではないよう、規則正しい学習習慣の維持を目指してきました。

4月中は、5教科(国語・地歴公民・数学・理科・英語)について課題を配信しながら、個別の質問を受け付けることよつて家庭学習を支援しました。また、休業の長期化を見据え、遠隔授業の準備を開始しました。種々のアプリケーションを精査・検討した結果、セキュリティの堅牢性とパフォーマンスの安定性から、Microsoft社のTeams(Office 365)をプラットフォームに採用しました。

GWには教職員を対象としてICTに関するオンデマンド型の研修を実施し、生徒の実態に応じた遠隔授業の方法を検討しました。5月中旬

に試行期間を設けて、環境に沿う遠隔授業の形態を模索しました。試行期間には各学年で複数回のH/Rと一部の授業を行い、高等部の全生徒が遠隔授業を受講できることを確認しました。

5月18日(月)から運用を開始した遠隔授業では、1日あたり2回のH/R(朝礼・終礼)、4コマの授業を実施する時間割を組みました。時間割上の遠隔授業は4月に引き続いて5教科(国語・地歴公民・数学・理科・英語)に限定しましたが、実技教科(保健体育・芸術・情報・家庭)についても、動画配信と課題の提出を課すことで、令和2年度の教育課程での学習内容を担保しました。一方、保健体育科で企画したラジ体操の動画には、教職員側が配信したものに対して、生徒からレス



画面に映し出された遠隔授業の板書と実際に受講する生徒の様子です。

ポンスとしての動画が送られてきたり、家庭科で立案した料理動画には、生徒と保護者から感想が聞かれたりする等、実技教科における動画配信は、学校と生徒が繋がりをもち続けるために不可欠な取り組みとなりました。

6月1日以降の分散登校期間も含め、4週間にわたって実施した遠隔授業は安定して稼働できたと言えます。学習進度を確保するという観点からだけでなく、登校再開に伴う精神面のケアという点でも効果を発揮しており、ようやく登校を始めた生徒の表情を見るにつけて、遠隔授業の成果を実感しています。通常授業だけではなく、放課後演習や講習等に関しても遠隔授業の手法を取入れながら、第二波の襲来という予期

される最悪の事態に直ちに対応できるような、この災禍の中で得た技能を維持・活用していきたいと思



生徒から届いたラジオ体操の動画。

**新型コロナウイルス感染症への対応**  
東京成徳大学深谷中学・高等学校

校長 神田 正

新型コロナウイルス対応に関し、生徒・保護者、教職員向けに発した文書・資料等を日付毎に、そのまま一部抜粋・転載することで、深谷校の取組をありのまま、紹介してみたいと思います。

2月25日(火)

「保護者あてお知らせ」一部抜粋

・・・(略)

3 体調の管理について  
発熱・咳など少しでも体調不良のある場合は、自宅療養してください。生徒は、出席停止扱い(通常の欠席としてみなさない扱い)とします。

また、同居する御家族に新型コロナウイルス感染者が出た場合、若しくはその疑いがある場合は、生徒本人が罹患していない場合も出席停止扱いといたしますので、自宅待機をして、家庭で学習をしてください。

4 学校としてその他の対応策  
(1) 生徒登校の際、マスク着用の奨励と、石けんによる手洗いの励行をお願いいたします。

(2) 教室の換気を毎休み時間に励行させています。

(3) スクールバスは、除菌スプレーによる手すり等の除菌をしております。

(4) 教職員は、原則として、マスク着用を義務化します。(略)

2月26日(水)

臨時企画委員会(「卒業式」関連)

・・・(略)

2 卒業式のあり方  
第五十五回卒業証書授与式(案)予定出席者

① 卒業生

② 在校生は送辞担当の生徒会長のみ出席、他の1・2年生徒は家庭学習日

③ 来賓(学園関係者のみ、学園長、理事長、PTA会長)・・・(略)

3月16日(月)

臨時企画委員会(校長指示抜粋)

・・・(略) 新型コロナウイルス流行に関して予見される今後の課題として何があるか整理し、対応策を検討し、機を逸することなく策定する。

本校の生徒・保護者には「どんな状況であっても、生徒の学校生活が充実するよう、しっかりと指導する」ことを、教職員の共通実践

の中で示す。

また、この事態が原因で、急に収入減少となり、厳しい生活を強いられることになる生徒の家庭もあることに思いを寄せる。・・・(略)

3月18日（水）

臨時企画委員会（「入学式」関連）

・・・(略)

入学式の実施素案 その1〜4  
案その1 入学式を実施する。  
保護者の出席を制限して、短時間で実施する。出席者予定者…新入生とその保護者1名(略)  
案その2 (略) 卒業式と同レベルに縮小して実施する。・・・  
案その3 (略) 式場で実施せず  
に、各クラスの中で校長が校内放送により、入学許可をする。  
案その4 入学式を実施しない。  
書面にて入学を許可する(略)

学校として、是非とも入学式を実施したいと考えておりましたので、感染状況に応じて、素案1から4までの案で進めるよう準備しておりました。入学式前日までは、ステージ壇上には、第58回入学式横看板(高校)、生け花、国旗・校旗、壁に紅白幕を張り、中高とも準備万端整えて、翌日の入学式に備えておりました。

しかし、式前日に緊急事態宣言が発出されることになり、急遽入学式を中高とも延期といたしました。その後、緊急事態宣言が延長されることになり、誠に残念でしたが、最終的に入学式は中止とせざるを得なくなりました。

4月7日に「入学許可書」と「校長あいさつ(校長式辞代替)」「PTA会長祝辞」等を生徒宅に郵送しました。

その後、1年生初登校日の6月5日に、校長から歓迎の言葉を伝え、入学記念写真をクラス毎に撮影することができました。Fアリーナ前には、生徒と保護者の方が、入学記念写真を撮ることができるよう記念写真スポットを6月20日まで設置しました。  
4月17日(金)

臨時企画委員会資料(校長指示)

・・・(略) 5月6日(水)までの緊急事態宣言が出されている。しかし、5月7日以降も継続される恐れがあり、また、解除されたとしても、徹底した感染防止を念頭においた教育活動が求められる。非常に困難な状況であるが、生徒と保護者に、できるだけ安心かつ納得してもらう学習指導、進

路指導、生活指導等を提供していきたい。(略) 教職員が互いに知恵を絞って提案し合い、一致団結・協力して対応することが重要と考える。(略)

5月28日(木)

職員会議(校長指示抜粋)

1 新型コロナウィルス対応

(1) 学校再開にあたり「学校の主人公である生徒の一人ひとりの心情に寄り添う」＝本校の姿勢。視点…「生徒にとって、今、何が大切なか」「自分の子どもへの幸せを願う程、将来に不安と責任を感じる保護者」

生徒の現状や将来への不安・心配、保護者の経済的苦境も十分踏まえることを本校の対応の基本的方針とし、生徒と保護者が納得し、満足するように努める。(略) 校長の思い「本校ICT教育が近隣他校に遅れをとってはならない。」PinchをChance(好機)に繋げ、ChanceをChangeによって生み出す(Coronaを→ganbariに変える)。

今までの常識をもう一度検証し、教職員の共通実践により、学校の今後の発展に繋げる諸教育活動を展開する。(略)

終わりに

今年の3月24日、年度の最終職員会議で教職員に伝えた「校長の指示連絡」文書の一部を転載します。

よい学校とは、よい教育の考え、よい学校とは、よい教育をすること。よい教育とは、生徒がよい成長をする指導。生徒がよい成長をする指導とは、建学の精神「成徳」徳を成す人間の育成」で生徒が「幸せになれる力」を研くこと。



高校1年生の初登校時の校長による歓迎のあいさつでも、ソーシャルディスタンスに配慮しました。



分散登校による登校が再開。感染拡大防止策の一環として、登校時の健康観察を実施している様子。

**新型コロナウイルス感染症への対応**  
東京成徳短期大学附属幼稚園

教頭 梶山 久美子  
**幼稚園でのこれまでの対応**

新型コロナウイルス感染症の影響により休園となっておりましたが、6月1日より、保育が再開されました。休園中のストレス解消を図るため、当面、外遊びを中心に保育を実施しましたが、子ども達は、元気に登園しみんな笑顔で楽しそうに、グラウンドを走り回り、ボール投げや、フリスビーで遊びました。

そして6月7日には、保護者の方々の出席のもと、新入園児の入園式が、中高一貫部校舎のアリーナで行われました。入園式は、間隔をあけて着席していただき、時間も短縮して挙行しました。当日は天気も良かったので、屋外で皆で記念の集合写真を撮ることができました。

保育にあたっては、次のことに注意し、新型コロナウイルス感染防止に努めています。

1. 三密を出来るだけ避けることを全職員が意識します。特に子供達は触れ合わないようにはすることは大変難しい問題ですが、机など出来るだけ分散、工夫しております。

2. 消毒の徹底 登園時の手の消毒机や椅子、トイレ、送迎バスの中等こまめに実施しています。

3. マスクの着用と手洗い・うがいの励行及び換気に注意します。

4. 毎日朝、家庭で検温と体調を記入したカードを各自持参してチェックしています。

5. 給食時の対策 6月15日から給食が始まり、食事前の手洗い・うがいを徹底し、座席は対面にならないよう配慮しています。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を実行しながらも、保育に前向きに取り組み、全職員でこの難局をのりこえて行きます。

**今後の対応**

新型コロナウイルス感染拡大予防策の制限が緩和されつつありますが、これから第2波の到来も想定されるため引き続き予防対策を次のよ

うに実施していきます。また、予定されている行事については、今後の状況をみながら、「母の会」とも相談し実施するか否かを決定します。

1. 健康カードをご家庭の協力を得て提出いただき、毎朝チェックするとともに、異常が認められる場合は、病院等とすばやい対応をします。

2. 食事の際には、引き続き食事前の手洗い、うがいを励行し、座席の配置を、対面にならないよう配慮し、おしゃべりをしないよう指導します。

3. 今年は6月以降の厳しい暑さが予想されるため、熱中症対策、水分補給、運動時のマスクの取りはずし等、園児の行動を見ながら、実施します。

今後とも感染防止の意識を共有し、全職員で努力して行く予定です。

**園舎建て替え工事の進捗**  
東京成徳短期大学附属幼稚園

今までの幼稚園舎は、当初の建物が昭和33年に完成し、増築・改修・耐震補強などの工事を経て現在に至っています。このたび、保育の1層の充実を図り、園児の快適性・機能性・安心安全に配慮した建物に建て替えることにしました。

新園舎は、敷地東側に集約し、園庭を拡張します。建物は、先ず東側園舎を解体し、新園舎の建築に着手、令和3年8月に竣工予定です。同年2学期から新園舎を使用した保育がスタートします。その後、西側園舎の解体、園庭・外構工事を実施し、令和4年1月に幼稚園の全面的なリニューアルは完成する予定です。

コロナ禍による工事遅延が心配されましたが、計画通りに進捗しており、東側園舎の解体が7月に終了、8月から新築工事を開始予定とされています。



隣接する中高の校庭を利用して、ボール投げや走り回る園児たち。



園児も、ていねいな手洗いとうがいで、感染拡大の防止に備えています。



大学・短期大学の就職・進路

コロナ禍での大学・短期大学の就職活動／昨年度の就職実績

大学・短大就職支援センター長  
特任教授 猪又 優

インターンシップ参加者の内々定

現在就職活動中の現4年生については、昨年からの企業の採用意欲の高まりを背景に、インターンシップに積極的に参加した学生が3月初めには内々定を取るなど好スタートを切りました。

コロナウイルスでの採用選考の遅れ

ところが、一転3月にはコロナウイルス感染者が徐々に増加し始め、4月8日からは7都道府県で緊急事態宣言の状態となりました。例年ですと、3月初めより企業エントリ、企業説明会、選考が進み、4月半ばには内々定が出ます。しかし、今年度は「三密」を避けるため企業は直接学生と接する機会を失いました。当初は様子見でしたが、感染拡大が進み、採用選考の遅れが明確となりました。

オンラインという新しい選考

大企業は、システム機器も充実しているため、急遽オンラインで企業説明会や面接に切り替え選考を再開しました。なるべく多くの学生と接

する機会を持ちたいが、選考が遅れると次年度計画にも影響すると考え、例年に比べ母数が少ないまま選考・内々定出しを行っています。中小企業においては、システム利用に關して遅れているところもあり、緊急事態宣言解除後に「三密」を徹底的に管理しながら実際の面接・選考を行っているようです。

学生の対応

オンラインでの企業説明会となり、リクルートスーツを着ることなく自宅で安全に企業の情報を知れるので概ね好評のようです。それにも増して、「チャット」機能を利用し、他の学生に気を使うことなく質問が出来ることが良いようです。しかし、オンラインでの面接となると、やはり直に会って自分を知って欲しいと不安を抱いている学生も多いと聞いています。

大学としての対応

選考活動の大きな変更により戸惑う学生、オンラインでの面接に不安を抱く学生を含む全学生向けに、4月27日よりオンラインでの就職相談を開始しました。安全かつ時間の節約にもなるので大変好評です。今後、選考活動の状況に柔軟に対応していく予定です。

令和元年度卒業生の進路状況

令和元年度は外部環境としてのアメリカの好景気、内部環境としての少子化の二つを背景に、企業の採用意欲も旺盛でした。就職活動をする学生もインターンシップに多数参加するなど例年に増して積極的でした。教職員の支援もあり、早期に内々定を貰う、例年以上有名企業から内々定を貰うなどの特徴がありました。結果学部により若干の差はあるものの総合的に非常に良い結果となりました。

大学の主な就職先

学部	主な就職先 (過去3年)
子ども学部	【教職・保育職】 小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、学童保育、児童館、施設等 【金融】 リソなグループ/朝日信用金庫 【アパレル(子ども服ほか)】 アダストリア/ナルミヤ・インターナショナル/ストライプインターナショナル 【サービス】 ベネッセコーポレーション/スタジオアリス/リクルートメディカルキャリア/森ビルホスピタリティコーポレーション/空のはね/biima/大戸屋 【卸小売】 赤ちゃん本舗/スギ薬局/エイブル/ゾフ 【不動産】 三井不動産ホテルマネジメント 【情報通信】 KDDI 【公務】 朝霞市職員
経営学部	【製造】 コーセー/レナウン/東洋食 【サービス】 JTB/公益社団法人 国際人材革新機構 【卸売・小売】 イトヨーカ堂/コカ・コーラボトラーズジャパン/ローソンエンタテインメント/アダストリア/ザラ・ジャパン/ビームス/マッシュスタイルラボ/ウエルシア薬局/ビックカメラ/ヨドバシカメラ 【金融】 東京東信用金庫/埼玉縣信用金庫/朝日信用金庫/飯田信用金庫 【運輸・郵便】 日本郵便/ヤマト運輸 【不動産】 住友不動産販売/京急不動産/大東建託 【建設】 川口土木建築工業 【情報通信】 システム技研 【教育】 ニチイ学館/国立音楽院/総合資格 【医療福祉】 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団
応用心理学部	【建設】 東光電気工事 【製造】 シンシ/小出ロール鐵工所 【卸小売】 渡辺パイプ/橋本総業/大創産業/メガスポーツ 【不動産】 共立メンテナンス/ヤマダホームズ 【サービス】 日立 ICT サービス/マイナビ/キャリアデザインセンター/エイチ・アイ・エス/ANA テレマート 【医療・福祉】 愛友会上尾中央総合病院/鴻池メディカル/タカサ/IMS グループ/日本調剤/ベネッセスタイルケア 【IT】 東京京装コンピュータ/プログデンス/テクノプロ 【金融】 水戸信用金庫/北陸信用金庫/東京シティ信用金庫 【公務】 柏市役所/江戸川区役所/八千代市消防本部/千葉県警察
人文学部	【建設】 ティーエスケー 【製造】 新栄/アドバンテック 【卸小売】 岡部バルブ工業/SANEI/湯浅/NAA リテイリング/マルエツ/BANKAN わものや/青山商事/千葉薬品/ヨドバシカメラ 【不動産】 金太郎ホーム 【サービス】 エイチ・アイ・エス/ANA スカイビルサービス/近畿日本ツーリスト/ANA 成田エアポートサービス/ワールドエンタープライズ/ANA エアポートサービス/総合キャリアオプション/リアホールディングス 【宿泊】 東横イン/あさやホテル/東急イーエックスイン 【医療・福祉】 日本調剤/アズパートナーズ/日本健康倶楽部/ベネッセスタイルケア 【教育】 千葉市立中学校/市川日本語学院

学部ごとの進路状況

進路決定率 (就職決定者+進学決定者+留学・専門学校入学者/卒業者)

	大学全体	子ども	経営	応用心理	人文	短期大学
2019年度	89.4%	91.4%	91.1%	90.3%	76.2%	94.6%
2018年度	89.3%	95.6%	90.7%	82.4%	80.9%	95.5%

就職決定率 (就職決定者/就職希望者)

	大学全体	子ども	経営	応用心理	人文	短期大学
2019年度	96.2%	98.4%	98.6%	94.7%	88.6%	99.4%
2018年度	95.5%	98.5%	96.7%	89.9%	93.9%	100.0%

高等学校の進学

東京成徳大学高等学校

進路指導部長 佐藤 則之

全国の18歳人口は平成30年度から減少期に入っています。また大学進学を希望する高校生の割合である「大学志願率」は長年上昇を続けていましたが、近年は頭打ちとなり、現役大学志願者数は減少しています。

しかし、令和2年は「最後のセクター試験」を意識した大学入試ということもあり、警戒する受験生の志向や翌年に新入試を控え、現役合格を意識した心理から、例年以上に安全志向が強まる傾向がありました。

大規模私大を中心に行われてきた入学定員管理も一段落したとも言われますが、油断できない進路指導が続き入試年度となりました。

令和元年度の卒業生数497名のうち、進学者は446名でした。内訳は、大学397名、短大9名、専門学校40名。進学率は約90%で、中でも大学進学は全体の約80%となり、昨年より若干上昇しました。浪人は50名で、昨年より若干減少しています。

えましたが、不安要素が続いたことで、挑戦校を減らし、安全校を増やす傾向が強くなりました。本校では合格の可能性を高めるため、生徒一人ひとりに受験校のデータ分析を行います。厳しい状況下であっても、「合格の可能性」を追求することで、合格が増えれば受験はおのずと成功します。今後も進路希望や学力などを総合的に考え、進路指導をしていきます。

東京成徳大学深谷高等学校

進路指導部長 木村 哲久

センター試験の主要科目の英語・国語で平均点が下降。5教科7科目総合型の平均点も文系・理系ともに低くなり、平均点が低かったことで話題になった平成30年度と同程度となりました。本校でも点数が伸び悩み、国立大の受験ではやや弱気の出願もありましたが、センター試験後の「生徒の伸び率」が高かったことと、「2次試験対策」を十分に行ったことで、前年並みの良い結果を収めています。群馬・秋田は医学部医学科、東工・筑波・東京外語・千葉などに合計35名が合格。難関大へ「挑戦する時代」から「合格する時代」へ変貌を遂げたと言えます。

令和元年度の卒業生数326名の進路は、大学191名、短大42名、専門学校75名、就職8名、浪人9名、その他1名。大学、短大への進学者数は昨年よりやや増加し、専門学校、浪人は昨年並みという結果となりました。進学コースや進学選抜コースでは昨年引き続き安全志向への高まりが見られました。推薦入試の志願者増加や新入試制度の導入に伴い、推薦基準の見直しや入試での評価項目の変更、新たに学力試験を導入するなどの動きもあり、各学校に合わせた入試対策が必要と考えています。

翌年に新入試を控えていることから現役志向を強く意識している状況がみられ、1つ下の難易度の大学を手厚く受験する必要があります。また、今年度も補充合格からの合格や不合格からの追加合格といった入学者数の調整が多く見られました。今までは以上に慎重な入試スケジュールの作成が必要となり、最後まで気を抜けない状況となっています。

令和3年度は新入試の初年度となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入試日程の後倒し、出題範囲を限定するといった変更の動きがある状況です。本校でも今後の入試情報に十分注意し、学習面においては進学センターを中心とした放課後講習や夏期講習、スタディサポートやスタディサプリなどの学習コンテンツを活用して確かな学力を身につけて希望進路を目指せるように出願指導を行っていきます。

東京成徳大学高等学校  
令和元年度 主な合格実績

国公立大学 (準大学含む)	36名
東京工業 筑波 東京外国語 群馬 秋田	
千葉 東京学芸 東京海洋 埼玉 宇都宮	
新潟 和歌山 琉球 東京都立 埼玉県立	
前橋工科 山梨県立 都留文科 新潟県立	
青森公立 釧路公立 防衛大学校 など	
難関私立大学	149名
早稲田 慶應義塾 上智 東京理科	
明治 青山学院 立教 法政 中央 学習院	
併設の大学・短大	14名
東京成徳大学 東京成徳短期大学	

(高等部・中高一貫部・浪人含む 延べ人数)

私立大の一般入試では、合格者絞り込みを警戒し、受験生の安全志向が際立ちました。ここ数年、入試難化の要因となった入学定員管理は、昨年度までに多くの大学が終えたように、実質倍率が低下した大学は増

えましたが、不安要素が続いたことで、挑戦校を減らし、安全校を増やす傾向が強くなりました。本校では合格の可能性を高めるため、生徒一人ひとりに受験校のデータ分析を行います。厳しい状況下であっても、「合格の可能性」を追求することで、合格が増えれば受験はおのずと成功します。今後も進路希望や学力などを総合的に考え、進路指導をしていきます。

東京成徳大学深谷高等学校  
令和元年度 主な合格実績

国公立大学	6名
埼玉 群馬	
埼玉県立 群馬県立女子 都留文科	
私立大学	267名
青山学院 立教 中央 法政 学習院	
明治学院 成城 日本女子 明治薬科	
日本 東洋 専修 獨協	
東海 大東文化 亜細亜 帝京 国土館 など	
併設の大学・短大	16名
東京成徳大学 (9名)	
東京成徳短期大学 (7名)	

(浪人含む 延べ人数)

## 第2期中期事業計画

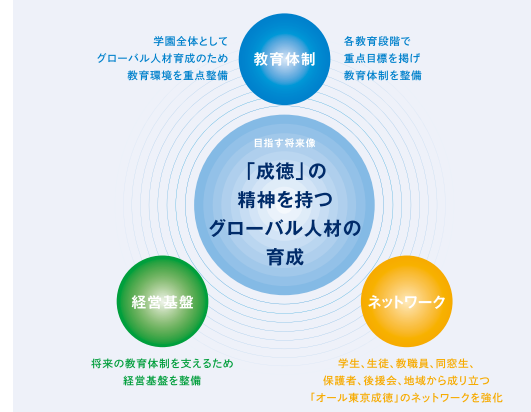
本学園では、東京成徳ビジョン100第2期（令和2～4年度）及び第3期（令和5～7年度）中期事業計画を策定いたしました。この計画は、平成27年にまとめられた、学園創立100周年に向けた将来構想「東京成徳ビジョン100」を、確実に実現するために立案されたものです。

第2期の概要は次のとおりです。

### 東京成徳ビジョン100の将来像

「成徳」の精神を持つ  
グローバル人材の育成

#### 「東京成徳ビジョン100」で定める3つの重点目標



「東京成徳ビジョン100」の詳細は、学園ホームページでご覧になれます。

<https://www.tokyoseitoku.ac.jp/vision100/>

TOKYOSEITOKU\_vision100.pdf

### 東京成徳ビジョン100の重点目標・戦略及び第2期中期事業計画の概要

#### 1. 教育体制

東京成徳ビジョン100		第2期中期事業計画（令和2～4年度）	
部門	重点目標	主要戦略	主要施策
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	○大学ブランド力強化のため「ブランド戦略」を推進 ○全ての学部学科及び研究科の入学定員100%充足を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランド力の強化</li> <li>改組転換により設置された国際学部の充実発展</li> <li>応用心理学部の学科再編の確実な実施</li> <li>学部・学科の移転に伴う教育体制の見直し整備</li> </ul>
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	○教育方法や教育評価の改善並びに就学率向上のため体制の点検整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職・進学と特色を勘案したカリキュラム改善</li> <li>アクティブ・ラーニングの充実</li> <li>中退率の改善</li> <li>キャリア教育の見直し・充実</li> </ul>
	大学の発展につながるグローバル化	○「グローバル教育センター」を設置し活動を展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グローバル教育センター」設置による活動推進</li> <li>海外提携大学の拡大・海外留学支援体制の整備</li> <li>外国人学生の受入れ体制態勢整備</li> </ul>
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	○社会のニーズと本学の特色を生かしたカリキュラム構成の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力的な本学独自のカリキュラムの検討・改善</li> <li>再課程認定による養成課程の充実</li> <li>就職後定着率の向上</li> </ul>
	教育の質向上	○学生主体の授業体制 ○教員の教育力向上のため授業法改善への取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検評価の確実な実行</li> <li>FD・授業評価によるカリキュラム編成</li> <li>附属園との実習連絡協議会により実習指導適正化</li> </ul>
	就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	○人的交流を生かした社会的評価に繋がる意識改革 ○社会に向けた人的資源の活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブラーニング授業やインクルーシブ授業の推進</li> <li>ホームカミング充実、教員免許更新講習拡大、保育研修会の継続と充実</li> </ul>
	短期大学の発展につながるグローバル化	○諸外国の教育・文化の広い知識を持てるグローバル教育科目の新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国籍園児への対応力アップ（外国文化・語学）</li> <li>外国の文化・教育・習慣に関する教育展開の推進</li> <li>関連科目「基礎英語」「幼児英語指導法」の準備</li> </ul>
高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神を涵養し主体的に学び、考え、行動する人材を育成	○建学の精神「成徳」を有し、主体的に学び、考え、行動する人材の育成 ○連携して目標や課題にチャレンジして達成する意欲向上推進 ○教育方法の質的転換を図り、理数教育を改善強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>建学の精神に基づく「自分を深める学習」の深化</li> <li>学校行事の主体的運営の実現等による生徒の主体的学びと豊かな発想の促進</li> <li>芸術分野の鑑賞・行事を通じて生徒の創造性の醸成</li> <li>CTP（Critical Thinking Program）（高等部）、理科プロジェクト（一貫部）の推進</li> </ul>
	グローバル人材の育成の強化を図るとともに社会的評価の獲得を目指して	○意欲と行動力に富む人材の育成 ○グローバル人材育成の強化、異文化理解とコミュニケーション能力の向上、海外教育協力校との連携交流 ○ICTの活用と情報リテラシー教育推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTリテラシー、ADS認定校としての活動強化</li> <li>留学プログラムの充実、中学全員留学の実施</li> <li>英語四技能向上の取組強化</li> <li>SDGsの導入と課題発見・解決力育むPBL授業の推進</li> </ul>
	大学入試の変化等にもともなう教育内容の変化への対応	○教科としての取組みとともに、個々の教員の指導力向上 ○進路指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト・英語外部試験への対応推進</li> <li>年度毎に進学目標を設定し、実現に向けた取組強化</li> </ul>

東京成徳ビジョン 100		第2期中期事業計画（令和2～4年度）	
部門	重点目標	主要戦略	主要施策
深谷高等学校・中学校	机上の学習をリアルな主体的実体験へ 生徒の能力や学習意欲を引き出す授業を展開	○生徒の能力や学習意欲・主体性を引き出す授業や特別活動の展開 ○机上の学習を実体験として生かす機会の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力アップ、アクティブラーニング型授業実践、学習時間の量的・質的確保策</li> <li>・ICT教育の環境整備と推進及び情報活用能力の向上策</li> <li>・学校行事の生徒主体運営への改善</li> <li>・外国人教員を活用したクリル（CLIL）（教科学習と語学学習の統合）の実践</li> </ul>
	外国語教育の充実・外国文化の理解などでグローバル人材育成での社会的評価の獲得	○外国語（英語）教育の充実 ○コミュニケーション能力の向上 ○外国文化・日本文化の理解 ○学校関係者評価や第三者評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学センター活用による英語検定対策講座・個人指導の充実、検定試験の種類の見直しと対策の検討</li> <li>・コミュニケーション能力向上を意識した教育活動の充実</li> <li>・外国人教員の増員、留学生の受入れ・交流</li> <li>・評価の着実な実施と活用</li> </ul>
	大学入試の変化等にもなう教育内容の変化への迅速な対応 受験指導における「東京成徳深谷サポーター制度」の導入検討も	○入試形態の現状把握、入試問題の分析と教育内容への反映 ○同窓会やPTA・後援会との協力関係強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入試への対応、入試問題分析・模試分析の継続</li> <li>・新学習指導要領による教育課程編成</li> <li>・併設大学・短大との連携強化</li> <li>・進学センターでの進路・学習指導の実践</li> </ul>
附属幼稚園	幼児教育環境の変化に対応する幼児教育のプログラムの再構築	○「こども園」を検証し、園の方向性決定。カリキュラムを中心とする教育内容の改善継続 ○グローバル対応プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私学助成型の幼稚園として運営するための園舎建て替え計画の確行</li> <li>・預かり保育の充実（通年実施）</li> <li>・カリキュラム改善</li> <li>・就業規則改定の検討</li> </ul>
	大学、短期大学等との連携の深化	○大学・短期大学からの指導援助を受けながら改善に努め、両者の実習園としての機能維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園機能の向上</li> <li>・学生の幼稚園行事への参加機会増</li> </ul>

## 2. 経営基盤

東京成徳ビジョン 100		第2期中期事業計画（令和2～4年度）
重点目標	主要戦略	主要施策
大学の段階的な規模拡大による学園規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「東京成徳」ブランドの確立を図り、学園全体としての規模の維持・拡大を推進</li> <li>○少子化の進展、23区内の大学定員増規制もあり、高い進学率や社会ニーズに即応して、学生数の極大化を目指すと共に、環境変化に注視</li> <li>○キャンパス再編成、移転を完遂し、現定員に応じた学生数の確保</li> <li>○短期大学及び中等教育部門は、建学の精神を活かした教育実践の一方、時代の進化にも対応</li> <li>○幼児教育部門は、総合学園の特長を活かし、新園舎、新定員の下で安定運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等教育部門の全学部学科の安定的定員確保</li> <li>・大学・短大の3センターの機能発揮（入試広報の高度化、カリキュラム改善、学位・資格等の引上げ）</li> <li>・十条台キャンパスの機能改善</li> <li>・八千代キャンパスの継続的使用</li> <li>・中長期的な学部学科編成の見直し</li> <li>・広報戦略（ブランド戦略）の強化</li> </ul>
社会的ニーズに対応した戦略的な施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目指す教育の推進につながる戦略的な設備投資を優先的に実施</li> <li>○学習環境・安全性・快適性の改善、ハード・ソフト両面のセキュリティ対策の推進</li> <li>○低稼働率の資産等について利活用の検討</li> <li>○幼稚園舎の建て替えを着実に実施後、高等部や深谷校舎の建て替えの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、中高、深谷、幼稚園それぞれの運営の将来形に見合った長期設備計画の策定</li> <li>・ICT投資、英語教育関連投資を優先的に取組む</li> <li>・情報セキュリティの強化</li> <li>・革新的な技術、ノウハウ等の積極的導入</li> </ul>
安定的な財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全部門での定員確保による学納金増加、補助金と寄付金の増加に注力</li> <li>○支出について、部門統合に伴う業務の見直し・合理化による人件費削減及び諸経費見直し等による経費削減の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京成徳」ブランドの確立と浸透</li> <li>・学生生徒園児の募集活動の強化</li> <li>・総額人件費の抑制、個人人件費の見直し</li> </ul>
活力を生む人事制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雇用関係の社会環境、法令等の変化を踏まえた人事・給与制度の見直し</li> <li>○「グローバル人材の育成」に資する活力ある人事制度の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質改善に関連しての人材の確保</li> <li>・メリハリある給与体系の検討</li> <li>・グローバル人材の活用、活力ある人事制度へのシフト</li> <li>・労務関係法令等改正への対応、コンプライアンスの徹底</li> </ul>

## 3. ネットワーク

東京成徳ビジョン 100		第2期中期事業計画（令和2～4年度）
重点目標	主要戦略	主要施策
創立100周年に向けて、学園の教育及び経営基盤を支えてきた、「オール東京成徳」のネットワーク強化、地域社会との連携取組積極化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学園創立100周年と各校周年行事との連携したイベントの開催</li> <li>○各校間のスポーツ・芸術活動を通じた一体感の醸成</li> <li>○部門ごとに同窓会活動の活性化</li> <li>○地域社会との交流をテーマとしたイベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集、データ整理に注力し構想・アイディア検討</li> <li>・部門間交流・共通認識醸成の機会拡大</li> <li>・同窓会組織の充実</li> <li>・100周年事業等の記念事業の検討</li> </ul>



## 令和元年度事業の概要

学園は、創立94年に当る令和元年度に、1,633人が卒業し、累計卒業者が12万7千人を超えました。また、1,670人の入学者を迎え、令和2年5月1日現在の在籍する学生・生徒・園児数は、前年比94人減の5,338人となりました。

今年度の学園の主要事業としては、①創立100年の将来像をまとめた「東京成徳ビジョン100」を具体化するため、第一期中期計画（平成29（令和元年度）の着実な実施、②効率的で効果的な運営を目指した大学校地校舎の統合推進と新学部の円滑なスタート、③コンプライアンス重視による内部監査実施や法改正に対応した規程整備、などを行いました。

高等教育部門の主要事業としては、①人文学部から改組転換により設置された国際学部で1年後期からの全員留学の効果的な実施、②来年度から東京キャンパスに移転する応用心理学部健康・スポーツ心理学科の「都市型カリキュラム」の整備、③高等教育のブランド構築に着手、ブランド戦略会議の立上げ、理事長インタビューやワークショップ等の実施、④「教育の質向上・就業力や

社会人基礎力の育成」に向け、出口とのつながりの見えるカリキュラムへの改善、各学部学科に適したアクティブラーニングの開発拡大、キャリア教育の見直し、⑤短期大学において実践的教育の充実や就職園との連携による他大学との差別化、グローバル教育に向けての学修体制の充実、などを行いました。

中等教育の主要事業は、①グローバル人材の育成を目指して留学プログラムの見直し（東京の中学3年次全員留学の開始・深谷中学の学期留（学等）やネイティブ教員増員による英語教育の充実、柔軟な発想力・論理的思考を養うCTP（Citizian Thinking Program）授業の展開継続等教育改善の取り組み、②理科・社会等でアクティブラーニング型授業の一層推進、③進学センター講習やスタディサプリの整備、などを行いました。

幼児教育部門の主要事業は、教職員の資質・指導力の向上を推進した他、来年度着工の園舎建替えに向けた準備、などを行いました。詳しくは、学園ホームページをご覧ください。

## 学校法人東京成徳学園 令和元年度決算報告

### 資金収支計算書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,109,916
手数料収入	148,908
寄付金収入	16,587
補助金収入	1,670,341
資産売却収入	187
付随事業・収益事業収入	4,001
受取利息・配当金収入	805
雑収入	294,133
借入金等収入	1,250
前受金収入	921,843
その他の収入	237,310
資金収入調整勘定	△ 1,161,948
前年度繰越支払資金	6,372,048
収入の部 合計	12,615,381
支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	3,820,082
教育研究経費支出	963,395
管理経費支出	341,484
借入金等利息支出	20,833
借入金等返済支出	148,160
施設関係支出	207,533
設備関係支出	41,956
資産運用支出	0
その他の支出	279,301
資金支出調整勘定	△ 301,206
翌年度繰越支払資金	7,093,843
支出の部 合計	12,615,381

(注) 千円未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

### 事業活動収支計算書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで) (単位:千円)

科 目		金 額	
教育活動収入の部	学生生徒納付金	4,109,916	
	手数料	148,908	
	寄付金	967	
	経常費等補助金	1,639,908	
	付随事業収入	4,001	
	雑収入	294,112	
	教育活動収入計	6,197,812	
	教育活動支出の部	人件費	3,821,909
		教育研究費	1,797,191
		管理経費	415,562
徴収不能額等		8,721	
教育活動支出計		6,043,382	
教育活動収支差額	154,430		
外収支	教育活動外収入計	805	
	教育活動外支出計	20,833	
教育活動外収支差額	△ 20,027		
経常収支差額	134,402		
特別収支	特別収入計	47,961	
	特別支出計	0	
特別収支差額	47,961		
基本金組入前当年度収支差額	182,363		
基本金組入額合計	△ 221,692		
当年度収支差額	△ 39,329		
前年度繰越収支差額	△ 10,360,677		
基本金取崩額	423		
翌年度繰越収支差額	△ 10,399,583		
(参考)			
事業活動収入計	6,246,578		
事業活動支出計	6,064,215		

### 貸借対照表

(令和2年3月31日) (単位:千円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	42,685,742
有形固定資産	39,667,488
特定資産	2,929,965
その他の固定資産	88,289
流動資産	7,551,822
資産の部 合計	50,237,564
負債の部	
科 目	金 額
固定資産	4,096,173
流動資産	1,770,012
負債の部 合計	5,866,185
純資産の部	
科 目	金 額
基本金	54,770,962
第1号基本金	54,047,962
第3号基本金	300,000
第4号基本金	423,000
繰越収支差額	△ 10,399,583
純資産の部 合計	44,371,379
負債及び純資産の部 合計	50,237,564

令和二年度事業計画(抜粋)

部門	ビジョン 100 重点目標	2020 (令和 2) 年度主要事業の内容
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学並びに各学部学科等のブランド力の強化と目的意識の高い学生の確保</li> <li>千葉キャンパスからの移転に伴い、学生増加の著しい東京キャンパスでの学修環境並びに生活環境の整備</li> <li>本年度から東京キャンパスでの募集を開始した、応用心理学部健康・スポーツ心理学科の新カリキュラムの実施と教育内容の充実</li> </ul>
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の質向上のため私立大学等改革総合支援事業の取り組みの強化・推進</li> <li>外部評価委員会、学生代表者委員会などを通じた PDCA による教育の改善・向上</li> <li>教育活動(ティーチング・ポートフォリオ)を中心とした教員業績評価制度の定着化</li> <li>各学部学科・研究科の教育・研究の質を評価する指標の作成</li> <li>教育課程のスリム化と柔軟な時間割編成の検討(事前・事後学習時間の確保)</li> <li>学生の授業評価や学修調査の結果等を通じた授業の内容・方法の継続的見直し</li> <li>アクティブ・ラーニング(能動的学修)を含めた授業方法の見直しと学生の多様性にマッチした授業方法の開発・実践</li> </ul>
	大学の発展につながるグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学における国際教育・グローバル人材育成の推進を目的とした「グローバル教育センター」を設置し、交換留学プログラム、半期留学プログラムの事務体制も強化</li> <li>全学部を対象とした昼休み時間のベルリッツ講座の継続による全学的なグローバル化の推進</li> </ul>
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学試験問題について、アドミッション及び学びの3原則に則り作成</li> <li>本学の強い特色とする実践力の育成をさらに強化、そのため可能な限り、演習・講義科目での学外授業の展開</li> <li>就職後の定着調査の実施</li> </ul>
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学環境改善のために私立大学等改革総合支援事業の推進</li> <li>100分授業及びクォーター授業の可能性を模索し、課題抽出</li> <li>入学前ワークを次年度の授業内容を精査し、一層基礎学力に結びつくよう改善</li> <li>保育研修会での講座【分科会】を免許更新講習として実施</li> </ul>
	短期大学の発展につながるグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育におけるグローバル化の進展を踏まえ諸外国の生活文化教育について、学内人材を活用し展開</li> <li>国際治安の回復傾向にあるイギリス研修旅行の再企画実施</li> </ul>
高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神を涵養し 主体的に学び、考え、行動する人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分を深める学習」の深化・実施</li> <li>高等部の「CTP」プログラム、中高一貫部の探求型「理科プロジェクト」の推進</li> <li>学校行事の生徒による主体的運営</li> <li>芸術鑑賞(ミュージカル、歌舞伎)などの実施、中学・合唱祭の実施</li> </ul>
	グローバル人材の育成の強化を図るとともに社会的評価の獲得を目指して	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学プログラムの検討・実施、NZ留学後の授業改善の取組み</li> <li>外部検定試験の活用</li> <li>授業でのタブレット利用開始、ADS認定校としての活動を通じてネットワークの拡大</li> </ul>
	大学入試の変化等にもなう教育内容の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト対策及び英語外部検定試験受験対策の強化</li> <li>進学目標の設定と実現</li> </ul>
深谷高等学校・中学校	机上の学習をリアルな主体的実体験へ 生徒の能力や学習意欲を引き出す授業を展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外先進校視察研修、オンライン教育研修システムによる研修、校内互見授業などによる更なる授業改善の継続</li> <li>新学力観「学力の3要素」に基づく授業の一層の量的・質的向上、ICT教育の環境整備と推進、外国人教員を活用したクリル(CLIL)の実施</li> <li>全員のアクティブラーニング型授業の実践と公開授業の実施</li> <li>生徒が主体となるような行事の運営方法の見直しと改善を継続、生徒会執行部によるホームページを活用した情報発信</li> </ul>
	外国語教育の充実・外国文化の理解などでグローバル人材育成での社会的評価の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語検定対策講座と個人指導の充実、進学センターにおける講習の計画的開催</li> <li>英語によるレシテーション大会・スピーチコンテスト・プレゼンコンテスト・ディスカッション・ディベートの実施とその内容の充実</li> <li>インターネットを活用したネイティブスピーカーとの個別学習指導の推進</li> <li>外国人教員の増員と英語科のスタッフ充実</li> </ul>
	大学入試の変化等にもなう教育内容の変化への迅速な対応 受験指導における「東京成徳深谷サポーター制度」の導入検討も	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革への完全対応(活動報告書・eポートフォリオ・ネット型講座の全員導入)、英語4技能向上・資格取得に向けた指導の充実</li> <li>深谷校「進学センター」にて、放課後・長期休業中等に様々な講座を開講し、一人ひとりの志望先・学力に応じた進路・学習指導を実践</li> </ul>
附属幼稚園	幼児教育環境の変化に対応する幼児教育のプログラムの再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の新園舎工事着工に伴い、中高グラウンドも利用し運動場所の確保</li> <li>保育カリキュラムは従来通りとし、令和4年度からの新カリキュラムを検討</li> </ul>
	大学、短期大学等との連携の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学・短大との教育連携をより進め教育の質的向上を指向</li> </ul>
学園	グローバル人材育成のため、学園全体の教育環境を重点的に整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル教育センターの発足</li> <li>高等教育におけるICT教育の環境改善</li> <li>「英語コミュニケーション環境」の向上(設備、人員)</li> <li>中高のタブレット端末の整備継続、深谷のPCの充実、WiFi活用</li> </ul>

## 学園人事

令和2年1月～6月

### 役員の変更

高田直芳監事が埼玉県教育長に就任のため監事を辞任し、後任には石山賢氏が選任されました。  
 退任される高田監事は、令和元年5月に監事に就任、埼玉県立浦和第一女子高等学校長等の豊富な教育

経歴に基づく貴重なご意見をいただきました。

### (就任) 石山 賢 監事

東京教育大学(現筑波大学)文学部卒 協和銀行(現りそな銀行)を経て、学園評議員・法人事務局長・内部監査室長等を歴任。

職員		教員													所属				
深谷中高	大学・短期大学	深谷中学・高等学校			中学・高等学校	短大	大学												
清水 美子	西野 有希	水落 勇人	長谷川 陽子	堀 三和子	新井 啓一郎	青木 峻	齊藤 恵	今井 梨乃	鈴木 佳大	渡邊 晶	土屋 佳雅里	細田 成子	近藤永田 淳華	大澤 明洋	油谷 元規	藤崎 智子	一谷 幸男	配属・役職	
事務部	教務課員	教務課員	教務課員	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	幼児教育科助教	子ども学部子ども学科助教	子ども学部子ども学科助教	子ども学部子ども学科助教	子ども学部子ども学科特任教授	臨床心理学科特任准教授	臨床心理学科特任教授	応用心理学部	応用心理学部	臨床心理学科長・教授

職員		教員													所属				
法人本部	幼稚園	大学短大	幼稚園	深谷中高	中学・高等学校			大学											
石山 賢	坪谷 莉里愛	笹沼 栄子	野澤 満奈	藤巻 朱子	里見 志織	LARSSON ERIK CHRISTOFFER	小宮山 篤	中村 雅一	宮下 茂樹	鶴壽 由己	酒井 雅子	三枝 恵子	青柳 祐美子	小原 由美子	山内 志保	香取 早苗	櫻マカレト	周 建中	配属・役職
内部監査室長、企画調査室長	助手	教務課員	教諭	教諭	専任講師	専任講師	教諭	中学・高等学校副校長(一貫部)	教諭	経営学部経営学科教授	子ども学部子ども学科特任教授	子ども学部子ども学科特任教授	子ども学部子ども学科特任教授	子ども学部子ども学科特任教授	臨床心理学科特任助教	臨床心理学科特任教授	応用心理学部	国際言語文化化学科長・教授	国際言語文化化学科長・教授

### 役員の数勲

令和2年春の数勲において、青柳 晴久理事が納税功労により旭日双光章を、渡部賢理事・大学事務局長 光章を受賞されました。

昇任・異動

職員		教員													所属									
法人本部	大学・短期大学				深谷中学・高等学校			中学・高等学校	短大	大学														
異動	異動	昇任	昇任	昇任	異動	異動	異動	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	配属・役職				
飯田 峰丸	近田 英昭	名古屋 和宏	田村 千恵美	石代 哲久	古山 尚	深山 静夫	小林 雅央	高橋 舞	横山 和彦	高橋 浩	江幡 耕己	佐藤 則之	我妻 利真	馬場 康宏	芳賀 克彦	板生 研一	青木 研作	塚田 知香	SAITO TIMOTHY JAMES	水谷 清佳	岩瀬 弘和	直井 文子	前任	
内部監査室主任兼法人事務局総務課主任	教務課主任	総務課主任	教務課主任	入試広報課係長	八千代事務部課長	キャンパスライフ支援課長	大学・短期大学事務局次長	教諭	中学校教頭	高等学校教頭	教諭	高等学校教頭補佐(高等部)	教諭	教諭	幼児教育科教授	グローバル教育センター長	経営学部経営学科特任教授	子ども学部子ども学科教授	応用心理学部臨床心理学科特任教授	国際学部国際学科助教	国際学部国際学科教授	国際学部国際学科教授	国際学部国際言語文化化学科長・教授	国際学部国際言語文化化学科教授
法人事務局総務課主任	八千代事務部主任(総務担当)	総務課員	教務課員	教務課主任	八千代事務部課長	八千代事務部課長	事務局次長兼八千代事務部長	専任講師	教諭	中学校教頭	専任講師	教諭	教諭	教諭	幼児教育科特任教授	経営学部経営学科特任准教授	子ども学部子ども学科特任教授	経営学部経営学科特任教授	高等学校専任講師	人文学部国際言語文化化学科教授	人文学部共通領域部教授	人文学部国際言語文化化学科教授	人文学部国際言語文化化学科教授	

■ 東京成徳大学・東京成徳短期大学の WEB オープンキャンパス！



WEBオープンキャンパスの  
ホームページ閲覧は  
こちらから



ご自宅にしながら PC やスマホ、タブレットで視聴できる WEB オープンキャンパス。  
各学部・学科説明、入試、施設紹介など、より詳しく知っていただくためのコンテンツが満載です。  
ぜひ、ご視聴ください！

※ 8月22日(土)に、東京キャンパス(十条)で開催予定のオープンキャンパスは、規模を縮小して事前予約制の「進学相談会」を実施予定です。  
なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催日程、内容が変更となる場合がありますので、あらかじめ、ご了承ください。

■ 2021年度 総合型選抜 9月入試・10月入試 日程変更のお知らせ

総合型選抜(旧 AO 入試)は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験実施上の配慮により、  
4月に大学案内ならびにホームページで公表した入試日程から変更することになりました。  
変更後の入試日程は、以下のとおりです。

総合型選抜 9月入試	出願期間	【郵送】9月15日(火)～9月16日(水) ※消印有効 【窓口】9月17日(木) 9:00～13:00	
	選考日	応用心理学部 短期大学	9月26日(土)
		国際学部 子ども学部 経営学部	9月27日(日)
	合格発表日	1次選考結果	10月6日(火)
2次選考結果		11月2日(月)	

総合型選抜 10月入試	出願期間	9月25日(金)～10月8日(木) ※消印有効	
	選考日	大学 全学部・学科	10月18日(日)
		短期大学	
合格発表日	11月4日(水)		

※ ご出願の際は、必ず学生募集要項をご確認ください。  
その他の入試は、大学案内やホームページなどをご覧ください。

東京成徳大学・短期大学の  
資料請求は  
こちらから



学校法人 東京成徳学園	<a href="https://www.tokyoseitoku.ac.jp/">https://www.tokyoseitoku.ac.jp/</a>	
東京成徳大学大学院	<a href="https://www.tsu.ac.jp/gra">https://www.tsu.ac.jp/gra</a>	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	<a href="https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx">https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx</a>	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	<a href="https://www.tsu.ac.jp">https://www.tsu.ac.jp</a>	
東京キャンパス(十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス(八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	<a href="https://www.tsu.ac.jp">https://www.tsu.ac.jp</a>	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	<a href="https://www.tokyoseitoku.jp/js">https://www.tokyoseitoku.jp/js</a>	電話 03-3911-2786
高等部	<a href="https://www.tokyoseitoku.jp/hs">https://www.tokyoseitoku.jp/hs</a>	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	<a href="https://www.tsfj.jp">https://www.tsfj.jp</a>	電話 048-573-1784
高等学校	<a href="http://www.tsfh.jp">http://www.tsfh.jp</a>	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	<a href="https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/">https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/</a>	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383
学校法人 東京成徳学園	〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9	TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室		東京成徳広報 第48号 2020年7月発行